

# ういねっと

Wakayama environmentalists NET work

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

第23号

2010年12月22日

## 盛大に開催！「わかやま環境フォーラム2010」 in片男波



11月27日(土)、和歌山市の片男波「健康館」で行われた「わかやま環境フォーラム2010」は、出展・参加81団体、来場者総数1500人で、盛大に開催することができました。

みなさまのご尽力に心から感謝し、お礼申し上げます。

2003年から始まったわかやま環境フォーラム(主催・わかやま環境ネットワーク等)は今回で4回目。4年ぶりに開催した今回のフォーラムは、「地球温暖化・生物多様性・循環型社会形成・食と農」の4つのテーマをかかげ、「手をつなごう！持続可能な和歌山づくり」をスローガンに、広範な市民、環境NPO、行政、事業者呼びかけ、5月から毎月準備会議を重ね、協働してつくりあげました。

当日、心配された天気も、雨が朝のうちパラついたものの好天に恵まれ、前庭テントにずらりならんだ農産物、振舞い茶がゆ、ユニークな自転車、ソーラーカー、そして「ガーデンライブ」から流れるにぎやかな音楽が来場者を迎えてくれました。

「ドドド ドンッ！」県立紀北農芸高校和太鼓部の勇壮な演奏で幕を開けた屋内メイン会場は、4つのテーマでゾーン分けされ、50団体がブース展示。「エコカフェ」のスペースや、リポーターによるブース紹介中継もあり、出展者と参加者の和やかな交流が図られました。今



年は紀南・橋本・紀の川・岩出の各温暖化対策協議会も参加し、大いに交流を深めました。

午後からは、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の荒川聡氏と和歌山大学観光学部特任教授の戸塚敦子氏による、スペースプログラム「宇宙から見た地球環境 守るべき惑星・地球とは？」の講演が行われ、多くの子どもたちも参加しました。注目の帰還衛星「はやぶさ」の話もまじえた講演は、改めて自分たちのすむ地球を宇宙からの視点で見直し、その環境を守ることの大切さを認識させてくれるものとなりました。

野外会場では、10団体が出店。好評の「ふるまい茶粥」は今回も行列となり、竹筒茶碗と割箸を手にした来場者らは梅干も頬張って、満足げにお腹を満たしていました。ガーデンライブでは6団体が次々と演奏を披露し、観客の耳を楽しませてくれました。また、タンDEM車や介護三輪車、スポーツ自転車の試乗会もあり、参加者は、片男波公園を気持ちよく走ったり、紙すき体験、有機野菜や農産物の買い物、揚げたてのメンチカツに舌鼓を打つなど、大いにたのしんでいました。

「遊んで学ぼう館」では、「万葉の植物観察会」と、室内での「大マツボックリでミニツリーづくり」「どんぐりと石の工作」「ブーメランづくり」「シュロの葉でバッタをつくろう！」が行われ、多くの子どもたちや親子が楽しんでいました。午後からは5つの学校が環境活動を発表。子どもたちによる「環境問題車座トーク」が開かれ





た。トークでは「地球や私たちの町は、これからどうなったらよいと思うか」「そのためにはどんな活動が必要か」をテーマに、「自然がいっぱい、平和で過ごしやすい環境にいい町にしたい!」「町の人たちに活動を広め、一緒にやっっていく!」などの熱い意見に拍手が沸き起こっていました。近大生物環境学部のサークル「IPEG」と和歌山工業高校の環境コミュニティデザインのみなさんが発表やトークの補助にあたってくれました。



閉会にあたって「宣言」を採択。子どもたちによる「地球へのメッセージ」も披露されました。



「人の流れが悪かった」など会場の問題や演出の不備もありましたが、温暖化や食と農、エネルギー等、持続可能な和歌山をみんなでつくろう!という思いを共有することができ、とりわけ、子供たち・青年たちが自ら未来を切り開こうとする姿や活動に共感できたフォーラムでした。



手をつなごう! 思いを形に。持続可能な和歌山づくりに、これからも、みなさん、がんばりましょう!



## COP16の成果と日本の役割について

メキシコ・カンクンで開かれていた国連気候変動枠組条約第16回締約国会議=COP16は12月11日、カンクン合意と称する決議を採択して終わった。共同通信はその概要を次の9項目にまとめて紹介している。

- (1) 産業革命以降の気温の上昇を2度未満に抑えるため締約国は緊急に行動する。
- (2) 世界全体の排出量ができるだけ早く減少に転じるよう締約国は協力する。
- (3) 地球温暖化の被害を限定的なものにするためには、20年までに先進国全体で温室効果ガス排出量を1990年比で25~40%削減しなければならないことを認識し、先進国に削減目標の数値を上げるよう促す。
- (4) 途上国は全体で、20年に排出総量の伸びを抑制することを目指す。
- (5) 途上国の温室効果ガス削減を検証する仕組みをつくる。
- (6) 京都議定書の第1約束期間と2013年以降の第2約束期間の間に空白ができないよう、作業部会はできる限り早く作業の完了と採択を目指す。
- (7) 京都議定書の第2約束期間の基準年は90年とする。
- (8) 50年までの世界全体の削減目標を第17回締約国会議で検討する。
- (9) 発展途上国の温室効果ガス削減策を支援する「グリーン気候基金」や、温暖化の影響への対応を手助けする「カンクン適応フレームワーク(枠組み)」を設立する。

(1)から(5)まではIPCC(気候変動に関する政府間パネル)に代表される科学の見地が、決定的な破局を避けるために示した地球温暖化対策の要点について、世界がその合理性と必要性を認めたことを意味する。いずれも最も基本的な事柄であり、例えばピークアウトの目標年次が明記されないなど不満は残るものの、世界の政治が科学の警告を受け止める点で合意した意義は小さくない。昨

年のCOP15ではこんな基本的な見地のただひとつですらも、合意に至ることはできなかったのだ。

さらに(6)(7)、第2約束期間の内容で一致したことは、実質的に京都議定書の枠組の2013年以後の維持に世界が合意したことを意味する。COP16の結果について、メディアは一斉に重要決定を先送りと報じており、確かにそうともいえるのだが、元々カンクンで包括的な合意が成立する見込みはなかった。先送りは開会前から織り込み済みだったのであって、日本政府などの執拗な妨害にもかかわらず、京都議定書の枠組維持が確認されたことは期待以上の成果と評している。



では、日本政府はなぜ大嫌いな京都議定書が生き残るカンクン合意に賛成したのか。実は、共同配信にはなかったが、毎日新聞はカンクン合意の中に「議定書締約国には13年以降の削減目標に同意しなくてよい権利がある」旨が盛り込まれたと報じている。日本は「名を捨てて実を取る」といふべきか、世界が苦闘して練り上げた合意に同調する条件として削減義務不履行の権利を要求し勝ち取ったわけだ。途上国やNGOの激しいブーイングは当然であり、またこの騒ぎに隠れて米国はうまく世界の批判から逃げ切った。

ま、そうした問題点はあったとしても、国連気候変動枠組条約を土台にした交渉舞台の崩壊さえ懸念されたCOP15の結果からみれば、カンクンでこうした合意に世界が歩み寄った意義は計り知れない。刻々と差し迫る危機の前に、世界はとにもかくにも再び粘り強く困難な交渉のテーブルにつき、可能な合意を積み重ねることでその舞台装置を守り抜いたのだ。COP17で世界が足並みを揃えるまでの道りは相変わらず険しい。だが、そうしたなかで一筋の光明も見えたのがカンクンの一連の経過だった。ますます、日本政府の言動を変えさせる日本の市民運動の力量が問われる。(重栖 隆)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

### 自然食品の店 しおん

たま駅長を見に来る人で賑わっている和歌山電鐵貴志川線貴志駅前に、自然食品の店しおんはあります。経営者の西岡充子さんは、お子さんが食品アレルギーを持っていたことから自然食品に関心を持ち始め、老後を生き甲斐と楽しみをもって送れるようにとこのお店を始めました。

当初は自然食品を仕入れて置くだけでしたが、五年前から手作りお弁当を販売しはじめて好評を博しています。現在は一日平均20食を、ご近所や観光客に販売しています。なるべく地元の新鮮な食材を使うように心がけ、揚げ物の油や調味料も天然のものを使用しています。注文があると仕出しもしていますが、先日のわかやま環境フォーラムではテントで出店、二百食を完売しました。その後、「フォーラムで食べたお弁当がおいしかった」と、初めてお店に買いに来る方があったということです。材料の野菜はすべて地元の、できれば有機のものにしたいので



すが、調達するのはなかなか大変です。「最近では産消提携の会『ふうど』で地元の有機野菜が手に入るのありがたい」と西

岡さんは言います。

これまで、客層は、特別に健康や環境に関心を持った固定客がほとんどでしたが、「使い出したら、もう一般の市販品には戻れない」と、ご近所の方にも徐々に広がりが出てきました。最近の売れ筋商品は、那智勝浦町で作られている天然醸造のポン酢、有機の有田みかんを使ったミカンゼリーなどです。

西岡さんの夢は、今のお店を改造して、地元の食材にこだわったオーガニックに近い料理を出すレストランと野菜や果物など地元食材を売るお店にすること。せっかく貴志川線に注目が集まっているのだから、駅前の賑わいをつくりたいと思っています。

今の商売でもなかなか安定的にもうけを出すのは苦しいのですが、「もうけを先に言い出したら何にもできない」と、西岡さんはあくまで前向きです。

環境について思うことは、昔の人の、ものを大切にす暮らし方のすごさです。野菜を洗った水はそのまま捨てずに食器洗いなどに使い、最後は雑巾を洗って捨てる。ネギはヒゲまで刻んで利用する、といったことを母はしていたことを、最近よく思い出します。地球環境についても、豊かな国の人たちが、肉を食べる量を今より少し減らすだけで、ずいぶん違うと考えています。

紀の川市神戸802 電話0736-64-2315



### わかやま環境フォーラム2010宣言

私たちのふるさと和歌山県は、海、山、川といった多彩で豊かな自然と、この自然と関わるなかではぐくまれた歴史的・文化的環境に恵まれています。しかし、地球規模の環境問題と、経済のグローバル化に伴う地域経済の空洞化が、この恵まれたふるさとの環境にもくらくらい陰を投げかけています。

環境問題はよく、身近な取組から、と言われます。電気や水の無駄遣いに気をつける、ゴミを減らすといった個人の取組は大切です。しかし、こうした個人の取組を支えていく社会の仕組み、また個人の取組をムダに終わらせない社会的な連帯がなければ、地域の環境問題でさえ解決できません。まして地球環境の問題は、文字通り地球規模での構想と取組が必要です。

本日、ここに行政、企業、学校、市民団体等81の環境問題に取り組む団体と、1500人の市民が集まりました。皆が等しく、この美しい豊かな地球とふるさとを次の世代にバトンタッチしなければならないと考えています。そのために、以下のことをここに申し合わせたいと考えます。

- 一、行政、企業、NPO、あるいは大人と子どもという垣根を越えて、持続可能な環境の先進地・和歌山県をつくるために、ともに知恵を出し、行動するつながりをつくっていきます。
- 一、私たちひとりひとりが、環境に関する知見を深め、それぞれの立場で未来の世代に対して責任ある行動をとり、地球を破壊しない暮らしをつくっていきます。
- 一、低炭素社会への転換を住みよいふるさとをつくるチャンスととらえ、再生可能エネルギーへの転換、農林水産業の振興と地産地消の促進、そのほか環境ビジネスに積極果敢に挑戦し、また、それを地域で支えていきます。

2010年11月27日 わかやま環境フォーラム参加者一同



## 事務局だより

### ■事務局より

わかやま環境ネットワークの2010年は、事務所移転(2/11)にはじまり、田辺市での紀南フォーラム(9/25)、そして5年振りとなった「わかやま環境フォーラム2010」を和歌山市で開催し、大いに奮闘しました。

会員のみなさまには様々な面でご支援、ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

環境問題に関する世界情勢は、決して楽観視できませんが、来年も前進していく所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

## 「うちエコ診断」実施中

和歌山県地球温暖化防止活動推進センターでは、今年度から、パソコンソフトを使って楽しくわかりやすく、家庭の省エネ度、導入効果の高い省エネ方策を知ることができる「うちエコ診断」を実施しています。

「うちはエネルギーの無駄使いしてへんよ」というおうちでも、実はよそのお宅と比較して多くのCO2を排出しているということはある話。現状を「見える化」して、本当に効果の上がる「エコ」するために、ぜひ一度受けてみませんか？

診断は、事前アンケートにお答えいただき、診断員がご家庭を訪問して行います。1時間程度、パソコン画面を見ながらやりとりをします。わかやま環境ネットワークの事務所に来ていただく窓口診断も行っています。費用はもちろんかかりません。

ぜひ、お気軽にご応募下さい。



### ■うちエコ窓口診断を毎週火曜日に開催します

「うちエコ診断」を気軽に受けていただけるよう、「窓口診断」を以下の予定で開催します。診断は無料です。申込はセンターまで。

※ 開催日時：2011年1月11日～3月15日の間の  
毎週火曜日 午後1時30分～4時30分

※ 場所：センター事務局1階会議室

## インフォメーション

### ■ 「ドイツの環境先進都市からみえた人もまちも元気になる持続可能な地域づくり」

日時：2011年1月18日 18時30分～(要事前申込)

場所：京都市 ハートピア京都 第5会議室

定員：50名 費用 800円(会員500円)

主催・問合せ：NPO法人環境市民 075-211-3521

### ■ 県民カレッジ「わかやま学講座」農業フォーラム

#### 「産消提携と地球環境の今」

(基調講演とパネルディスカッション)

基調講演・コーディネーター：

藤田 武弘氏(和歌山大学観光学部教授)

パネリスト：

重栖 隆氏 園井 信雅氏 山本 博氏 春原 麻子氏

日時：2011年1月22日 13時～16時

場所：和歌山市 和歌山大学生涯学習センター

※ 定員(200名)入場無料

主催・問合せ：NPO法人市民の力わかやま

073-428-2688

### ■ 「有機農業フォーラム」

日時：2011年1月25日 13時～

講師：山川一穂氏 重栖 隆氏

場所：田辺市 JA紀南 営農生活本部ふれあいセンター

主催・問合せ：紀南地域有機農業推進協議会

0739-23-3450

### ■ 環境問題について考える市民集会

#### 「再生可能エネルギーへの転換と推進」

日時：2011年1月27日 18時～

場所：和歌山市 和歌山ビッグ愛 8階 会議室

主催・問合せ：和歌山弁護士会 073-422-4580

### ■ 県民カレッジ「わかやま学講座」

持続可能な和歌山づくり 第3回講座

#### 「公共交通の活性化」

講師：伊勢昇氏(和歌山工専 環境都市工学科助教)

日時：2011年2月16日 19時～21時(要事前申込)

場所：和歌山市 NPOボランティアサロン

主催・問合せ：NPOわかやま環境ネットワーク

073-432-0234

来年も大いに学び、語りあいましょう。



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第23号 (2010年12月22日発行)

発行：NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重栖 隆

〒640-8269 和歌山市小松原通3丁目22

電話 073(432)0234 FAX 073(432)3881

mail: wenet@vaw.ne.jp

http://wenet.info/